

「埼玉県第4期科学技術基本計画（案）」に対する御意見と県の考え方

- (反映状況の区分) A: 意見を反映し、案を修正した  
 B: 既に案で対応済み  
 C: 案の修正はしないが、実施段階で参考としていく  
 D: 意見を反映できなかった  
 E: その他

NO.	御意見の内容	意見数	県の考え方	反映状況
1 計画案全体				
1	研究職等の理工系の職業に関心を持つ児童生徒を増やすためには、イベントなどにより学びの楽しさを知ってもらうことが重要ではないか。	2	試験研究機関による科学実験教室の開催など、科学技術を身近に感じられる機会の創出を図ります。	B
2	「中小企業」ではなく、「中小企業・小規模事業者」という表現で記載すべき。	1	御意見を踏まえ、用語解説を追加しました。本計画において、小規模事業者は「中小企業」に包含するものとして整理しました。	A
3	県政サポーターアンケートの実施結果をみると、生活の安心を支える医療・健康・福祉分野の技術向上への県民の期待が高いことが分かる。商品開発・事業化に向け、産学官一体となって、技術シーズとニーズの最適な連携が図れる体制づくりを期待したい。	1	御意見を踏まえ、大学・研究機関の持つ技術シーズと、県内企業の技術のマッチングを進め、産学官連携の推進を図ります。	B
2 基本目標Ⅰ 「稼ぐ力」を高める				
4	大学で、次世代産業分野の技術開発として、高齢者向け自動車運転支援関連の研究開発を行っており、県内企業との連携等の支援をお願いしたい。	1	いただいた御意見を参考に、大学と企業が連携して研究開発を進められるよう、産学連携の推進に努めてまいります。	C
5	大学でロボット分野の研究開発に取り組んでいる。「県の農林水産業を支える戦略的試験研究の推進」に貢献する研究であり、県内企業との連携等の支援をお願いしたい。	1	いただいた御意見を参考に、大学と企業が連携して研究開発を進められるよう、産学連携の推進に努めてまいります。	C
6	「IoT等の活用による生産性向上」は中小企業にとっても避けて通れない道であり、施策としてもっと充実すべき。IoTと現場改善はセットで取り組むべき。	1	いただいた御意見を参考に、県内企業のIoT等技術活用支援に努めてまいります。	C
7	ITやIoTを活用した新たなビジネスモデルの創出支援を充実していくべき。研究者と県内企業とのマッチングの機会を設けるなど、さらなるIoT分野における産学交流が重要。	1	いただいた御意見を参考に、県内企業のIoT等技術活用支援に努めてまいります。	C
8	技術開発や新しいICTの知識を社内にて講義や直接指導してもらえる機会があるとよい。先端的なニーズと具体的な連携マッチングを期待する。	1	いただいた御意見を参考に、県内企業の技術開発支援や産学連携の推進に努めてまいります。	C

3 基本目標Ⅱ 科学技術を活用した暮らしやすい社会をつくる				
9	頻発・高度化するサイバー攻撃から県民の重要情報を守るため、インフラの破壊や不正操作なども含め、保護対象を広く表記する必要があるのではないか。	1	サイバー攻撃への対策については、県警本部等と連携して取組を検討してまいります。	C
4 基本目標Ⅲ 科学技術イノベーションを支える「人財」を育てる				
10	企業の核となる技術者を早期から養成するため、工業高校の高等専門学校化を検討してはどうか。	1	本県においても、工業高校が大学や企業等と連携し、専門的知識、技術及び技能の向上を図るとともに、実践的な職業教育により地域の産業界が求める人材育成に努めており、引き続きこうした取組により工業高校での工業教育の充実を図ってまいります。	C
11	IOTやAIをはじめとした科学技術の進展が進む中、それらを活用できる人材の育成が不可欠である。様々な取組を有機的に組み立て、県全体の科学技術の発展の底上げが図られることを期待する。	1	いただいた御意見を参考に、科学技術を活用できる人材の育成を図ります。	C
12	IOT等の活用による生産性向上を担う人材育成は大変よい取組だと考える。これに加えて、早い段階からの人材育成策もあると良いのではないか。	1	いただいた御意見を参考に、IOT等の新しい技術を活用できる人材の育成を図ります。	C
13	企業から大学あて、採用面談を受ける学生を増やせないか相談を受けることがある。大学生の県内企業への理解を深める取組を拡大すべきではないか。	1	いただいた御意見を参考に、学生が県内企業への理解を深められるよう努めてまいります。	C
合 計		14		